

＜第九回 日向市キャリア教育推進懇話会  
社会体験学習についての意見交換＞

大王谷学園中等部（中学校） 社会体験活動

「14歳のよのなか挑戦」 について

I. 趣 旨

1. 「地域をあげて子供たちを育てる街」をめざしていきたい、と願っています。  
既に、様々な形で学校支援や育成支援が活発に行われていますが、これに加えて、子供たちの「社会体験活動」をさらに充実させていきたいと考えています。  
・中学生の「職場体験」（2日間で実施されています）を、将来的には5日間が理想ですが、先ず大王谷学園において3日間に延長して取組みたいと思います。
2. 「社会で働く（仕事をする）」ということを学び体験することで、中学生の時に将来を真剣に考え、大きく成長していける機会になります。
3. 「地域の魅力と課題」を、多様な大人から聞くことで、進学や就職で地域外に出ても、将来はこの地域に住み続けたいと思う子供たちを育てるきっかけになります。

\*なお、上記と併せて、高校生や大学生のインターンシップ（就業体験）、新社会人の合同研修会などにも、今後取組んでいきたいと考えています。

II. これまでの「職場体験」との違い

1. これまでは、とりあえず「仕事を知る」ことに主眼が置かれ、「何でもいいから経験させてほしい」というケースも多くみられました。
2. 今回は、「普段通りの仕事を、可能な範囲で経験させてほしい」、「許される範囲で、失敗も経験させてほしい」と思います。  
\*「中学生」として受け入れるのではなく、「新入社員」（無償のアルバイト）に近い形で受け入れていただけるとありがたいです。
3. そのために、事前に準備しておくことや、気を付けておくべきことがありましたらお聞かせいただきますようお願いいたします。

### Ⅲ. 体験活動での成果と課題 (生徒の感想・声) (H28年 大王谷学園8年生より)

○気付いたこと、学んだこと、役に立ったこと等について次のような生徒たちの声があった

1. 担当の看護師さんの後ろについて、実際の仕事の様子を見ることができ、仕事の内容や病院の仕組みを詳しく学ぶことができました。めまぐるしく動いて働いていて、担当の看護師さんを見失うこともありました。看護師の仕事の大変さもわかりました。  
将来は、看護師になれるように精一杯がんばろうと思いました。(体験先：病院)
2. 美容室の体験学習で、パーマの道具やシャンプーの溶液を手渡しする仕事をしました。最初にやったとき、美容師さんの動きに対して、邪魔になる位置にいて注意を受けました。それから、相手の行動を見て、動くことを考えるようにし、できるようになりました。また、あいさつの声が小さく、注意されました。  
今回の体験を通して、普段の学校でも、元気なあいさつや、相手のことを考えた行動を心がけたいと思います。(体験先：美容室)
3. まず最初に言われたことが「ずっと笑顔で」ということでした。よく見ると、働いている人すべてが笑顔でした。お客様は、明るい店に来やすいと思うので、接客するときは、笑顔が大切なことを知ることができました。お客様から見えるレジや厨房の体験中も、笑顔を心がけました。(体験先：飲食店)
4. この職場体験を通して、地域の方とあいさつすることが、とても気持ちが良いことに気づきました。窓拭きや割引券配りの仕事をしました。お客様に、「大変だね」「ありがとう」と感謝され、お客様の笑顔を見ると、気持ちが良くなりました。これからは、積極的なコミュニケーションを大切にしようと思います。(体験先：ガソリンスタンド)

○一方で、反省や課題として、次のような生徒たちの声があった

1. もうちょっとたくさん仕事がしたかった。作業がなく見ている時間が長かった。何をしたらいいか迷ってしまった。休憩の時間が長かった。
2. 自分自身、あいさつができなかった。お客さんに対して、明るくあいさつすることが難しかった。あいさつの声が小さくなってしまった。もうちょっと大きな声で返事をして早く活動するとよかった。
3. 自分から積極的に仕事を探すことがいまいちできなかった。行動が遅くなってしまった職場の人と、あまりコミュニケーションがとれなかった。もっとテキパキと行動すればよかった。もっと積極的に「何か手伝うことはありませんか」と聞いて動けばよかった。言われる前に行動したかった。
4. 事前訪問で忘れ物をしてしまった。いろんな体験の中で、ミスをしてしまうことがあった。もっと真剣にすればよかった。  
自分の選んだ仕事以外のことも知りたかった。

#### IV. 今回の「社会体験」活動について

##### <中等部8年生（中学2年生）の社会体験学習>

1. 名称 「 14歳のよのなか挑戦 」
2. 日時 平成29年10月24日（火）～26日（木） （3日間）
3. 参加人数 原則として2～3人の予定です。（学年全体では、3クラス、106人）  
（事業所によって可能であればもっと多人数も考えられます）
4. 社会体験で伝えてほしいポイント
  - (1) 真剣に仕事に向き合う姿を見せる  
普段通りの働いている姿を見せ、真剣に働く様子を感じさせてください。  
どういう思いで仕事をしているか、働く大人の気持ちに気づかせ、また大人の働く姿から、働くとはどういうことなのかを考えさせることが、この体験にねらいです。
  - (2) 何のために働くのかを伝える  
働くということは、生活するお金を稼ぐためだけではなく、仕事を通して様々な経験が自分の成長につながることに、そして自分がやりたいことだけをするのが仕事ではなく、誰かのためになることをするのも仕事であることを教えていただきたい。
  - (3) どんな仕事にも意味があることを伝える  
体験を通して、「働くとは何か」を考えさせるのが目的です。  
体験させることができる仕事は、「雑用」「補助」と呼ばれるものかもしれません。  
しかし、そうした仕事も大切な「仕事」であり、誰かの仕事につながっていること、役に立っていることを教えてください。
  - (4) チームワークの大切さを伝える  
仕事には、一人で行う業務はもちろん、チームや仲間で行う業務も多くあります。  
周りの人との協議や「報告・連絡・相談」などを生徒に求めることで、生徒は普段学校で学んでいる「チームワーク」の大切さを再認識することができます。
  - (5) 人間性を高めることの大事さに気付かせる  
社会のルールやマナー・エチケットを体験することで、一人前の社会人・職業人になるには何が必要かに気付くことができる。  
親や先生以外の大人から、仕事に真剣に向き合う姿や生き方を学ぶことで、いいかげんでは社会では通用しないことに気付くことができると思います。

< 中等部 7 年生 ( 中学 1 年生 ) の「職業人取材学習」 >

1. 名称 「 ステキな大人発見 ( 教えて ! 社会の魅力 ) 」
2. 日時 平成 2 9 年 1 0 月 2 5 日 ( 水 ) 1 1 時 ~ 1 2 時前後 ( 約 1 時間程度 )
3. 参加人数 6 ~ 7 人 ( 学年全体では、3 クラス、9 2 人 )
4. 「職業人取材学習」のねらい
  - ( 1 ) 自分の進路 ( 進学 ) さらに将来について、積極的に考える機会をつくる。
  - ( 2 ) 8 年生 ( 中学 2 年生 ) で行う「社会体験学習」につなげるステップとして、職業人を取材するという体験の場を設ける。
  - ( 3 ) 社会の方々に直接触れることで、当校で取組んでいる「あいさつ・返事・後始末・お手伝い」活動の具体化を図る。
5. 「職業人取材学習」の具体的な内容
  - ( 1 ) 職場の方の仕事ぶりをビデオやカメラで撮影し、その後インタビューを行う。
    - ・実際に日々仕事をされている方たちに、どのようなことを考えて仕事に取り組んでおられるのか
    - ・なぜその仕事に就かれたのか
    - ・中学生の頃はどのように過ごせばよいのか・・・etc
  - ( 2 ) 「社会体験活動」を行っている 8 年生に、インタビューを行う。

以 上